

オーストラリア（豪州） 豪中銀は2会合連続で政策金利を据え置き

- 豪中銀は6、7月の連続利下げ後、政策金利を据え置き
- 住宅価格が上昇するなど金融緩和効果に期待
- 追加利下げ観測から豪ドルの上昇余地は限られる

■ 豪中銀は大方の予想通り金利を据え置き

3日の金融政策決定会合で豪中銀は先月に続き政策金利を据え置きました（図1）。国内外の動向を見極めるため様子見姿勢を維持したと考えられます。一方で持続的な成長とインフレ目標達成に向けて必要なら追加緩和を行う姿勢を示唆、年内追加利下げの可能性は高いとみています。

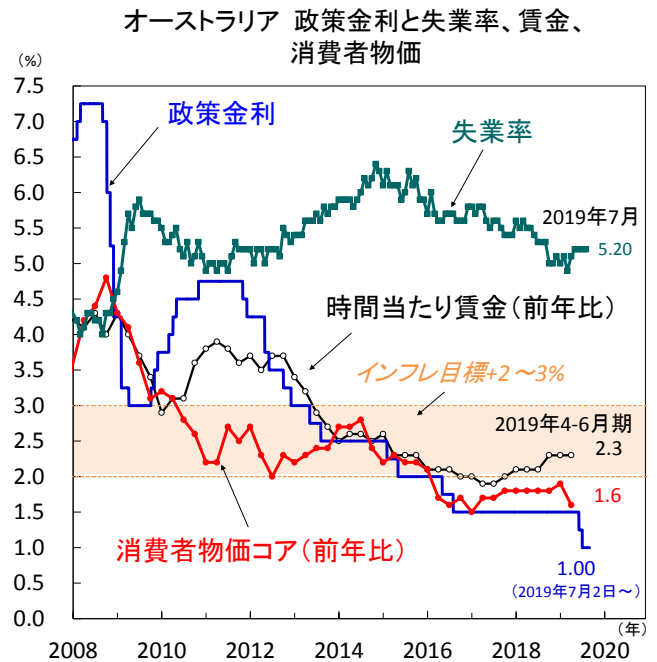
■ 利下げによる景気押し上げ効果に期待

豪中銀は利下げが所得押し上げや豪ドル安を通じ景気を後押しするとみており、声明文では成長率が徐々に強まる見通しを示しています。また住宅価格が前月比で上昇に転じる中（図2）、住宅市場安定化の兆しが個人消費や成長率を支えると指摘、今後も金融緩和効果が期待されます。

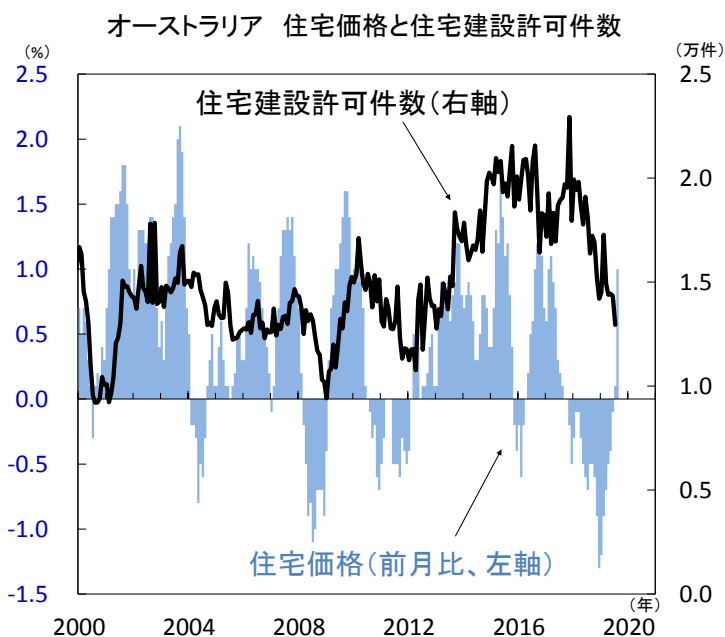
■ 豪ドルは米中対立に振り回される展開

豪ドルは米中摩擦の激化や中国景気の減速懸念を受け軟化。利下げ観測で上値は限られ、今後も米中対立に敏感な展開が続く見込みです（図3）。一方、米大幅利下げ期待で豪米金利差は縮小、資源輸出拡大による過去最高の貿易黒字が、需給面で豪ドルを下支えするとみまます。（向吉）

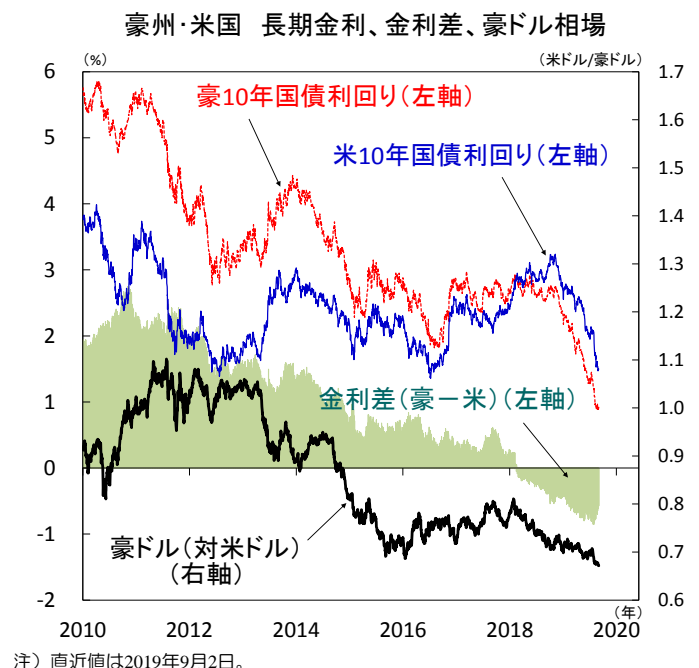
【図1】 豪中銀は金融緩和により失業率低下、インフレ率引上げを目指す



【図2】 住宅価格が約2年振りに前月比で上昇

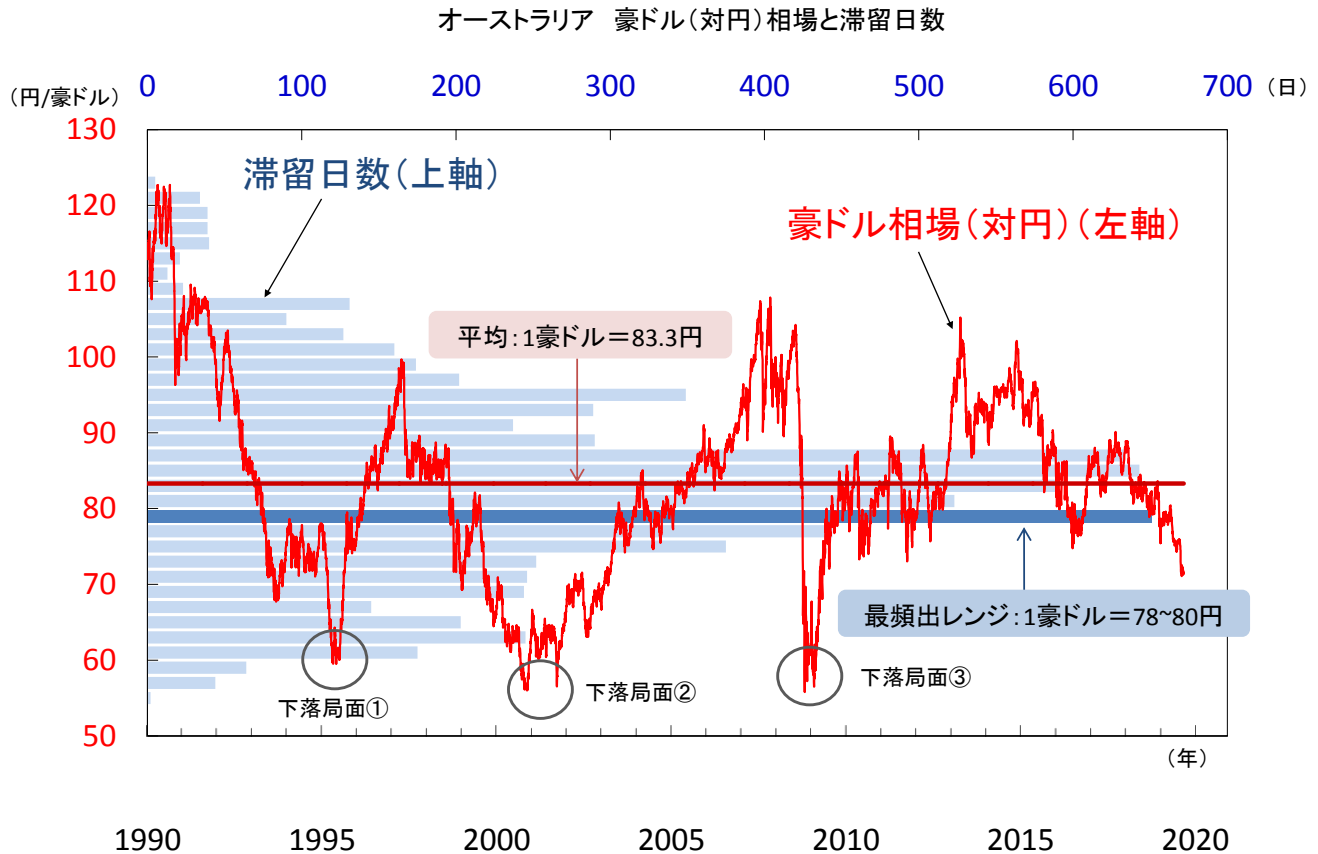


【図3】 米金融緩和期待が高まるなか豪米金利差は縮小



【参考】豪ドル相場の推移・滞留チャート（1990年1月～2019年8月末）

滞留チャートとは、上記期間内における豪ドルの対円相場の終値（50円から130円までのあいだの2円刻み）が収まった日数を集計し、グラフ化したものです。



チャートの解説

- ・足元の豪ドル相場は、2019年8月30日現在、1豪ドル71.4円となっています。
- ・上記の期間中、1豪ドル70円未満の滞留日数は、1122営業日でした。
1豪ドル70円未満となった日数は、1990年1月以降全営業日のうち、約14%程度しかありません。
- ・なお、大幅な豪ドル下落局面は、上記の期間中、過去3回ありました。
下落局面① 1995年：円高加速（4月19日、1ドル＝79円75銭）
下落局面② 2000-2001年：ITバブル崩壊、9.11テロ
下落局面③ 2008年：リーマン・ショック

本資料に関してご留意頂きたい事項

■本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJ国際投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。■本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。■各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見直し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。■本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJ国際投信戦略運用部経済調査室の見解です。また、三菱UFJ国際投信が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。



三菱UFJ国際投信

三菱UFJ国際投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会